



自然と生き物の色々な話



～侵略的外来種とは～

皆さんこんにちは。今回は外来種についていくつかお話したいと思います。

皆さんは外来種に対してどんなイメージを持っていますか。何となく悪者、良くない物というぼんやりとしたイメージを持っていませんか。外来種と外来種問題とは一体何なのかを考えてみましょう。

外来種とは、「元々その地域にいなかったのに、人の活動によってその地域にやってきた生物」の事をいいます。これに当てはまる生物はすべて外来種です。しかし、多くの外来種は慣れない自然環境の中では生きていけません。例えば元々寒い地域にいた生物は日本の夏の暑さでやられたり、日本の生物に食べられたりと、人に世話をしてもらわないと生きていけない場合が多くあります。しかし、人の世話にならなくても生きていける外来種もいます。その中でも特に、日本に元々いる生き物(在来種)といえます)からすみ処や食べ物を奪ったり、エサとして在来種を食べ尽くしてしまうような外来種がいます。これらを「**侵略的外来種**」といて、外来種問題を引き起こす生物として注目されています。

生物は地域ごとに**生態系**という複雑な生物同士の関係を持っています。そこに侵略的外来種がやってきて、在来種を食べ尽くしたりすみ処を奪って追いやりしてしまうと、生態系を作る生物が1種、また1種と減って行ってしまいます。人は食べ物や衣服、木材などのいろいろな物を原料として生態系からもらって生活していますが、外来種の侵略が続くとどんどん生態系が崩れていきます。このように生態系が崩れていくことを「**走っている車から部品が一つずつ外れていくような状態**」と例えられています。この時、車に乗っていた人はどうなるでしょうか。

そこで、侵略的外来種から生態系を守るために、**外来生物法**という法律で様々なルールが決められています。そこで特に皆さんに覚えて欲しいルールがあります。

「**悪影響を及ぼすかもしれない外来種をむやみに日本に持ち込まない**」「**飼っている外来種を野外に捨てない**」「**野外にすでにいる外来種は他の地域に拡げない**」の3つです。例えば、飼っている外国のクワガタやカブトムシを生きのまま逃がしたり、釣ったブラックバスやブルーギルを別の場所で逃がしたりしないでください。最後に兵庫県に棲む外来種を3つ紹介します。



アルゼンチンアリ



オオクチバス(ブラックバス)



ナルトサワギク

兵庫県においては神戸周辺に生息している外来種です。2.5mm程の小さな昆虫で、コンクリートの隙間などの狭い場所に巣を作ります。また、他のアリをよそに追いやってしまう性質を持っていますので、棲み家を追われた在来種のアリが全滅してしまう可能性があります。

全国的に有名な外来種です。兵庫県の各地の川や池や湖に棲んでいます。食欲旺盛で元々棲んでいた在来種をあっという間に食べ尽くしてしまいます。釣りの魚として知られているので、もしオオクチバスを釣った場合は、元の場所に戻したり、他の場所に持って行ったりせず、処分してください。

兵庫県では丹波と但馬以外の各地域に生えている外来種です。アレロパシーという他の植物の成長を邪魔する物質を撒くところがこの植物の特徴です。他にもセイタカアワダチソウやハリエンジュといった植物が同じ特徴を持っています。